関する総括質疑

○渋谷佐輔委員長　概要の説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

蒲生吉夫委員の総括質疑

○渋谷佐輔委員長　順位１番、議席番号17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　３月11日午後２時46分に発生いたしました、先ほど命名されたことを聞いた東北地方太平洋沖地震、まさに観測史上最大の、国内的には最大のマグニチュード9.0という大変な規模でありましたし、長井では電話はもちろん、電気を始め、ライフラインが大変な状況の中で、電気が通じるまでの間、24時間じっと耐えたのかもしれません。食糧、燃料などがお金があればいつでも手に入るという時代を通り抜けてきた私たちにとっては、生活そのものを見直していかなければならないような大事件であったのではないかなというふうに思います。

やはり不幸にして津波によって亡くなられた方などに対しても、また大きな被災に遭った人などに対しましても、亡くなられた方などに対しても本当にお悔やみを申し上げたいと思います。

私もこの質問の準備は、月曜日までには確かに終わしておりました。予算委員会も３日目ということでありますが、終わしていたんですが、何かと落ちつかない日が続いて、頭の中の準備が極めて不十分なままですし、今までになく予算総括の原稿らしくない原稿なんですね、今回のやつは。今までは質問、答弁、質問、答弁と、こういうスタイルをやってきましたが、そういうような感じでない原稿になったんです。

それにしても通告しておりましたので、いつになるのかと、こう気をもみながら原稿をつくっていたんですが、それなりに白山森のスキー場の問題などについてはずっとこれまでも議論してきたことでありますから、その後の活用などについてどんなふうにあるのかと、あるべきかと、あってほしいかというあたりを中心にご質問を申し上げたいと思います。

委員長の許可を得て、きょう資料として、いきいきアグリ、ダイナミック・開放的に北海道の特性生かす庭づくりという、こういうやつですね、配付させていただいております。私は、この何年間の中で見たものの中でこれはやっぱり一番すごいというふうに思ったものであります。これ新聞の名前書いておりませんが、農業新聞の写しなんです。これ去年の７月２日の農業新聞のやつでありますけれども、それを配付させていただきました。

まず最初にお尋ねしたいのは、白山森スキー場、この前閉場式を行いました。２月20日ですね。市長にも来ていただきまして、ごあいさついただいたりして大変盛り上がった閉場式だったんではないかなというふうに思っております。

あのスキー場は、できておよそ30年なんですね。それ以前は横森スキー場と呼んでいて、そこ約20年ぐらい運営されたようですね。私はいない時期なんでわかりませんが、土地改良のときに客土をとる山になったんで、かわりに白山森スキー場をつくったというところを見てきますと約半世紀、50年、市民のファミリースキー場として運営してきたものでありますから、それなりに運営を委託受けた地元の人たちというのはかなり丁寧に運営をしてきてくれてるんですね。

この50年の中で大きな事故は、私はなかった

のではないかなというふうに思っています。私、白山森になって30年間はほとんど大きい事故なんて聞いたことないですね。小さい事故はありますよ。その意味では半世紀にも及んだこのスキー場が事故もなく終わったということでは、言ってみりゃお役ごめんなのかもしれませんが、残っているものがあるんですね。ゲレンデが残っております。それとヒュッテも残っております。

ゲレンデはすごい整備をしてるんですよ、あすこは。ヤハハエロなんかに使うカヤ畑として残してるところ一部あるんですね。それ以外のところはスキー場の運営の皆さんたちはグラススキーを何とかできないかということで芝を張ったんですよ、あの斜面に。芝を張って育てたんですが、グラススキーは結果はなりませんでした。とうとうなりませんでした。ただ、ブッシュの刈り取りやなんかする必要ない分だけやっぱり整備はなされたのかなというふうに思っております。

あのスキー場を教育委員会としては、今年度で終わりだぞというふうにしたときに地元の地権者の人たち、寺泉の人が２人、あと川原沢の人たちだけですね。あと市の土地も一部そこにあるんですね。私らが議員になる前にもちろん買い求めた土地だと思います。駐車場なんかもいろいろとさまざまな土地が混在しているというふうになると思うんですね。しかし、市の方で経営をやめるといったときに、何とか地元で経営する方法ないかということで運営委員長中心にして当たってくれたんですよ、地権者に。「スキー場として運営するんだったらただで貸してもいいぞ」と。これは頭に「スキー場として」とついてるんです。そういうふうなことをご快諾いただいた上でいろんな手だてをしたんですが、とうとう運営できなかったんですね。

私は、西山のあのパノラマというのは本当にお金では買えないパノラマがあると思います。そのパノラマを生かした何かできないだろうかというふうに考えての質問なんですね。景観条例なんかも今回つくりましたけども、あのパノラマを残していくだけで私は十分景観条例の役に立ってるなというふうに思ったんですね。私ちょうど長井に住んで30年になります。30年前に昨年火災に遭った四釜製作所に私勤めたんですよ。そのとき西山を見ると、ああ、すごいところなんだなということ気づきました。食堂が２階にあったんで特によく見えたんですね。そこでゴルフ場みたいなのがあるなと思ったんですね。しかし、ゴルフ場ではありません。そこは古代の丘の星の広場のどうも牧草地だったらしいですね。それをあそこにゴルフ場あるなんて私聞いてないですから、行ってみたんです。やっぱり牧草地でした。そんなことで私は、本当に西山周辺というのはかえがたいものがあるんでないかというふうに思ったんですね。

後でゲレンデをどうしようかという部分を質問いたしますが、まず駐車場、ゲレンデ、ヒュッテあたりのその土地の関係がどうなってるかというところがあると思うんですね。ヒュッテを残すにしても、そこは私の隣組の人の土地なんですよ、あすこは。そこはよくわかるんです。ただ、何らかの方法で使うとなれば話し合いの余地が私はあるんだと思いますね。その意味では現在どんなふうな土地の所有の状況になっているかについてまずお聞かせ願いたいと思います。

○渋谷佐輔委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　お答えいたします。

白山森スキー場周辺の市の土地でございますが、まず駐車場の方が1,282平米ございます。私もちょっと認識不足だったのが、ちょうどスキー場の入り口のあたりといいますか、ヒュッテの近くなんですが、野川土地改良区の幹線水路がございますが、この周辺に13筆、１万1,112平米ございます。合わせますと１万2,300

平米ぐらいでございます。

それからヒュッテでございますが、これは蒲生委員がおっしゃるとおり川原沢の方の土地でございまして、宅地として1,901平米ございます。

そしてスキー場敷地として長井市で借りておりました、現在もまだ借りてるわけでございますが、この敷地が山林として３万3,237.64平米ございます。これが白山森スキー場の周辺の土地の概要でございます。

○渋谷佐輔委員長　17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　ヒュッテですね、建物を建てるというのは、すごい苦労して建てたんだと思います。壊すのは私は簡単だと思いますね。鉄であれば分別して、また溶鉱炉に入って溶かしていくというスタイルとりますけれども、しかし材料そのものというのはすごいエネルギーを使ってるんですよね。材料一つ一つをつくっていくエネルギーというのは、すごい量を使っていると思うんです。その意味ではスキー場として、またスキーのヒュッテとして利用は終わったというふうになるのかと思いますけれども、そういう資源というのは私は本当にもったいないなというふうに思っています。

特に私は本当にもったいないなと思っているのは、西根の市民体育館ありますね。あすこ結構手を加えていただいて、今も北中の部活、今多分男子バレー部か女子バレー部かどっちか使っていると思いますね。中学校の部活は、ああいう施設がないともう部活できない状態ですよね。その意味では私は、直してよかったなというふうに思っています。フロアはかなり古かったんで、１回カッターをかけていただいて研磨していただいて、フロアだけがもうぴかぴかですね。だけども耐震計算なんかすれば、もうあれは絶対通らない建物だと思います。しかし、今回のこの地震でも持ちこたえたわけですから、まずまだまだ使えるかなと。

特にヒュッテも30年だと思います。30年もしくは29年くらいかなというふうに思います。しかし、まだまだ使えるような気がします。あの隣に西根小学校の子供たちがスキーやスキー靴を持たないでスキー授業ができるようにスキーハウスをつくってんですよね。２棟あるんです。１棟は、これは多分しかわからないです。建設業者さんの現場事務所に使っていたものをもらってきたもんだと思います。もう１棟あります。もう１棟は、かつて西根農協前の西根児童センターと保育園併設していたところに車庫があったんです。園児バスの車庫。それを何らかの方法で運んだんだと思いますね。それが２棟目のプレハブづくりです、ハウスなんです。そういう細工をしながらあすこ運営してきたわけなんですね。

しかし、それはもうずっと古いですから、何ともならないような気がしますが、ヒュッテは使う方法あるんでないかなというふうに私は思ってるんですね。このヒュッテの部分というのは、市長、この前ちょっと閉場式のときに来たとき私言ったんですけども、農家レストランでどうだろうと、こういう話をしたんですね。

このところちょっと農家レストランで行ってきたところがあります。山形市なんですけれども、随分遠いところです。嶋地区から真っすぐ行って天童の方に向かっていって、免許センターなんかあるところを今度左に行くと右側のリンゴ畑の中にレストランがあるんです。ピザリアというレストランがありました。そこは山形市なんですよ。市内にあるんです。ところが道路１本隔てると、そこは中山町長崎です。もう一方の方は、近くに川があるんですね。川を渡ると天童市の寺津というところになるんですね。ですからその店が建ってるところは、山形市そのものなんですね。一番端っこですけど。私は、やっぱりいいなと思った。

そういう目で見ていったんで、オーナーの人

にちょっと聞いたんですね。ストーブは、まきストーブたいていました。それは何でもいいと。たくものはまきであれば何でもストーブだからいいわけですが、ところが石焼き窯という、石窯と呼ぶんでしょうかね、ピザを焼く窯があるんですね。そこにたく木は何でもというわけにいきませんと。そこは桜もしくはサクランボの木をたいてますというふうに言ってました。要するににおいが多分少しつくんでしょうね。

その意味では、周りに何にもないんですよ。果樹園ですよ。私行ったときには大した人数いませんでした。11時半に着きましたので。２組ぐらいいたかな。私多分３組目だったと思います。12時少し過ぎまでいてきたんですけども、すると大体店の中は半分以上埋まってきたということかな。多分あそこに行くにはナビがなければ行けないかなというような場所です。その意味ではそんな使い方もあるんでないかなというふうに思ってるんですね。

私は、もうそういう使い方するにしても地元で何かやってくれというのは、これは無理です。スキー場に何とかできないだろうかというふうに思ってきましたけども、私は一定の手を加えたらそういうふうにしたい人をやっぱり公に募集するというやり方だってあるのではないかなというふうに思ってるんですね。狭い範囲で西根だけで考えるとなかなかそれは難しいというふうになるわけで、いろんな使い方があっていいのではないかなというふうに思っているんです。そこを地元でとれるラズベリーなんか近くに植えておいて、摘み取りができたりできるようにしてるんですね。また、余談ですが、石窯でたいたピザはとってもうまいんです。機会あったら行ってみればいいかと思いますけども、そんな使い方はヒュッテどうだろうかと。ほかにもありますが、そんなふうに考えてきました。何らかの方法で残す方法を考えていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○渋谷佐輔委員長　答弁は午後からちょうだいするとして、ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後１時といたします。

午後　０時０２分　休憩
午後　１時００分　再開

○渋谷佐輔委員長　休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、鈴木武次委員から早退したい旨の届け出があり、許可しましたので、ご報告いたします。

それでは、蒲生吉夫委員の質疑を続行いたします。

内谷重治市長。

○内谷重治市長　蒲生吉夫委員の方からヒュッテの方をうまく活用しながら何らかの形で地域のためにこれ残すべきでないかというご質問でございますが、委員の方からは地元で何かやるのは難しいだろうというお話でございました。川原沢にとって白山森スキー場というのは、地域の活性化に大いに資する施設だったわけですけども、それが残念ながら集中改革プランの一環としてスキー場を閉鎖せざるを得ないということに対して私の方から、蒲生委員がご指摘のように佐藤区長さんの方に何らかの形でこのヒュッテをご活用いただけるとしたら取り壊し費用程度の部分でご支援することは可能でないかというようなお話をしました。

私の基本的な考え方としては、運営といいますか、活用方法については、やはり川原沢の皆さんの意思だろうというふうに思ってます。あるいは川原沢では対応できないとしたら、ぜひ西根地区でご対応をご検討いただきたいと。ただし、今ようやく予算として今回計上させていただいたヒュッテの取り壊し費用でございます

んで、新年度に入って予算をご可決いただいた後いろいろ働きかけしてみたいというふうには思いますが、しかし、それ以上、市の方で何らかの経費を上積みして公募で活用方法を募りながら借り手を探すということとはちょっと私から申し上げた件は違う件なのかなというふうに思っておりますので、今の段階ではまずはやっぱり川原沢の皆さんがどうなのか、あるいは西根の皆さんでこれを活用するとか、そういう考えがあるのかどうかというのをまずお伺いしながら考えていきたいなと思っているところでございます。

○渋谷佐輔委員長　17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　私は、やっぱりスキー場としてするんであったら地元運営で何とかできるかなというふうに思ってはおりました。

　後の方に書いてあるのは、「田舎暮らしの体験宿舎に」というふうに書いてますけれども、おととしですね、北海道の安平町に行ってきたんですね。そこでは教育長の宿舎があったらしいですね。そこを改装して移住・定住促進のための体験宿舎にしているというようなことだったんですね。その意味では私は、やっぱり移住・定住促進策をしながら３万人復活大作戦を何とかならないかというふうに考えてるんだと思いますね。ちょっと雪の大変なところです。スキー場ですから、当然そうですが、除雪機なんかであれば下の方に置く場所がいっぱいあるし、まきストーブたくんであったらそれもまきをいっぱいストックしておくいろいろなところもありますし、上の方少し改修すれば、ふろはないんですね。ふろはないですから台所で厨房になるところありますでしょう。すると少し手を加えれば田舎暮らしを体験したいと、いずれは定年近くなったら住んでみようかなという人に対して１週間なり２週間なり体験できるような宿舎としても使えるんでないかというふうに思うんですね。改めてそれを何かしようというのは、私はやっぱり難しいのだと思います。その意味ではこれもやっぱり公に集める必要があるのかなというふうに思ってるんですね。市の土地もさっき言ったようにあるようだし、畑もできるぞと、花壇もできるぞというようなことというのはとても大事なことだと思うんですね。そういう使い方もまずできるんでないかなというふうに思ってきたんで、地域だけでなくて公に集めたらどうだろうというふうに思ってきたんですね。

　もう一つあります。川西の置賜農業高校玉庭分校のところもそういうふうにしてるんですね。去年、おととしかどうか、ギャラリー停車場で私ちょっと作品見てたところで、竹田征三さんという人なんですけど、絵かきなんですよ。東京の方に住んでいて、多分東芝だったと思うんですけども、早目に退職して飯豊町に一時住んでたんですね。白川ダム湖の絵をかいたりなんかしたやつなんか見せてもらいましたけど、その人がいて、お会いして、今どこに住んでるんですかと。その玉庭分校の寮だったところを地域の人たちが改修をして、今私はそこに住んでますというようなことなんですね。だからやっぱり、いつ建ったかわかりません。飯豊分校の宿舎、分校だとか宿舎って私はわかりませんが、やっぱり手を加えて住めるように、また町の町民にとって触れ合いの場所にしてるようなんですね。私は、そこ見に行ってません。だけどやっぱり壊してしまうのは楽だけれども、改装して使えるんであったらやっぱり大事に使っていった方が私はいいのでないかなというふうに思ったんで、そういう体験宿舎みたいなできないだろうかと。

　もっと言えばトイレもそれなりにありますし、改装して買ってくれる人いるんであれば、住まいとして田舎に帰って生活したいという人なんかあれば、私はやっぱり十分使えるんでないかというふうに思いますし、高畠町の人口があん

まり減ってないというのはそういう理由もあるんですね。古い民家を農業の指導をしながらそこに住んでもらうという政策をとってるんです。それは政策です。私は、やっぱりそういう使い方も十分できるのでないかというふうに考えてるんですね。だから農家レストランだけでなくって、こんなこともあるぞと、もうちょっとやっぱり広く物を見ていけないだろうかなというふうに思ってるんですね。そこについてもう一度お願いします。

○渋谷佐輔委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　蒲生吉夫委員のいろいろな考え方は、私も同感の部分ございます。ぜひ、グリーンツーリズムとかなかなか進まない、あと農家民宿、農家レストランみたいなものもなさってる方が少しずつふえてます。確かに高畠のように有機農業を相当前から農家の方たちが運動として取り組んで、それで全国から学びに来たり、あるいはそのまま定住された方というのは結構いらっしゃいます。そういった意味では切り口として蒲生委員がおっしゃったような形で定住者や、あるいは交流の人口ふやすというのは有効な手だての一つだと思ってます。

課題は、そういったことをやろうとする市民の皆さんがいらっしゃるかどうかですね。それをすべて行政が段取りして、人も募ってというのはなかなか今の長井にとって難しいんじゃないのかなというのが正直な気持ちです。

ですから可能性としてはありますので、いろいろ検討していかなきゃいけないと思いますし、あと長井市内空き家がかなりふえておりますので、北海道あたりが３年、４年前ぐらいから行ってるように例えば１週間ぐらいの田舎暮らしの体験ツアーみたいなものを組んで、そこの一つとして例えば山形県、長井でも取り組んで、そこの川原沢のヒュッテを改造したところで生活とか、あるいは畑も借りられるし、場合によっては田んぼだって借りられるかもしれませんし、そんな都会から人を呼び込むための一つとしての活用もあると思いますし、それから蒲生委員から提供ありました、配付ありました北海道の上野ファームですか、すばらしいなと思います。ぜひこういったオープンガーデンも含めて農家の方たちがただ生産するだけじゃなくて、農園を見ていただいたり、あるいは宿泊していただいたり、それからレストランで何か食べてもらったりというのを長井でももっともっと進めていきたいと思っておりますので、そういった意味でまずは今の段階ではあそこのヒュッテをどうするかということはまだ内部でも打ち合わせしておりませんので、ぜひこれから打ち合わせをしながら活用方法を探ってまいりたいと思いますが、やっぱり課題なのはあのヒュッテの底地が市の底地であれば、これはある程度少し時間を置いて検討するということも可能なんですが、底地については借地しておりますので、そういったこともあって一方で、その前に3,000坪ぐらいの市の土地があるわけですから、これもせっかくの土地ですから何らかの形で活用したいとは思いますけども、一方で、そこに投資するのはどのぐらいができるか、あとやりたいという人がいればある程度支援という考え方もできるんでしょうけども、少しもう一回地元の方も含めて検討しながら、ただし借地の関係もありますので、その辺なんかは早急にどうするか方向だけでも定める必要があるなと、そのように思っております。

○渋谷佐輔委員長　17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　この新聞のスクラップの右側にいる人が娘さんなんですね。砂由紀さんという人なんですね。上野ファームのイギリスへ行って勉強してきた方で、以前に「風のガーデン」というテレビドラマがあったかと思います。緒形拳さんの遺作になった作品ですね。あと草笛光子さんだとか黒木メイサさんが出ていた、石田えりさんだという人も出ていたやつ

ですね。あれはプリンスホテルの庭なんですね。その庭は、プリンスホテルの庭なんです。しかし、そのガーデニングのデザインをしたのが彼女なんですね。この上野ファームもそこの撮影所に使われたんです。

私ちょうど行ったとき、田んぼの真ん中なんですよ、これ、田んぼの真ん中に土盛りにしてつくったガーデニングなんですね。私ちょうど行ったときに何か音が聞こえるなと思ったんで急いで走っていったらガーデンウエディング、結婚式やってました。天気がよかったし、ちょうど私はその結婚式やや終わってみんなで集合写真を撮ろうとしてるときに行ったんです。ちょうどパワフルな彼女は、脚立に上って、ガーデンは平らですから集合写真段差もついてないですし、上から撮ったんですね。脚立に上って集合写真撮りをしていました。私は、ここでするかなと思ったけども、やっぱりこういうこともいいなというふうに思いましたし、ちょうどお昼ごろになったんでおなかがすいたんで何か物食べさせてくれそうだなと思ったんで行きました。そこ納屋です。いわゆる家畜を飼ってたんで、その納屋ですね。納屋カフェというふうにして営業してましたね。花嫁さんの着がえしたりなんかするところをそこにつくってたりしたんですけども、もともと彼女のうちというのは米の農家なんですね。米の農家で、ガーデニングを学んで、それでこういう庭をつくった。その前に彼女が縫製、ファッションのつくる方か売る方かちょっとわかりませんが、そこに勤めていたんですね。

そんな感じで私は、イングリッシュガーデンなんですが、イングリッシュガーデン風北海道ガーデンというふうに、やっぱりその気候、土地に合わせたものをつくっていくということらしいんですね。多年草もたくさんあります。手かけられない分やっぱり多年草も必要ですし、木もたくさんあるんですよ、このイングリッシュガーデンって。イングリッシュガーデンの場合には、イギリスの一般の住宅では必ず実のなる木を植えるという、こういうことらしいですね。あの斜面にそんな庭があったら、いや、すごいだろうなという、ここは４万人ぐらい来るらしいです、年間にね。だけどあそこなら４万人なんて超えるかなんて思わないですけれども、どういうものかとイメージしてもらうのに役所のそこの交差点のところに花壇つくってくれてますね。遠藤かつえさんとそのグループの人たちがつくってくれてるわけですけども、あれがいわゆるイングリッシュガーデンの小さい規模のやつという、あれを巨大化したものが、イングリッシュ風ガーデンというか、イングリッシュガーデンというふうに呼ぶらしいんですけれども、やっぱり遠藤さんたちがそういうデザインができるんであれば、土地の私有地ももちろんありますし、市の土地もあるわけですね。何らかの形でやっぱりそんなスタイルできればいいのかなというふうに思うんですね。もちろんあやめ公園もつつじ公園も立派ですよ。立派ですけども、きょうび人が集まってくれるのは、やっぱり新しいガーデンです。その意味ではあんなガーデンが長井にあったらすごいだろうなというふうに思いつつ見てきたんですが、可能性どうか別にしろちょっと考え方お聞かせいただきたいと思います。

○渋谷佐輔委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　私も蒲生吉夫委員と同じように、そういうガーデンというのがかなり広がりといいますか、人を呼ぶ機能としてはあるんじゃないかなと思っております。22年度の長井まちづくり基金の事業の中で商工会議所の女性会が市内のガーデンを個人で自分の庭でなさってる方、あるいはあら町なんかですと和風の庭園を持ってる方がいっぱいいらっしゃるんで、オープンガーデンという形で１枚にしたカタログといいますか、パンフレットつくっていただきまして、

そういった意味では例えばまちなかに限ってないんですね。その一つにあそこの川原沢が象徴のパークとして整備されたら、これはなかなかおもしろいだろうなと思います。ですからそういった意味では市で１ヘクタール以上あるわけですね。3,000坪ぐらい。ですからそこをもともとは市で購入する際は別荘の分譲地を予定してたものを買ったというふうな話だそうです。ちょっといきさつはよくわかりませんが、ですからその土地の利用も含めてせっかくの土地が、里のすぐそばですから、集落内、地域内にあるんで、それと眺望も非常にすぐれております。そこにガーデンというのは私は大変いい発想だと思います。そんなことで検討する価値はあるかなと。ぜひ、私もイングリッシュガーデンというのはすごく好きでして、いろんな楽しみ方ができるので、リピーターで何度も行きたくなるんですね。普通の花一色というのとまた違うもんですから、そういった意味ではこれからの広がりとしてそういったところも市として検討しながらいろいろな可能性を探っていく必要があると思います。

○渋谷佐輔委員長　17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　いわゆる見せるガーデンのことをオープンガーデンというふうに呼ぶわけなんですね。有料にするのにすごいどきどきしたらしいです。2007年から有料にしたらしいですね。

寒い時期は何してるかというと、苗つくりしてるんです。花の苗つくりをしてるんですね。その意味ではガーデンというのは、やっぱりすぐはできないんですね。近くではやっぱり古代の丘の周辺というのは、私はすごい大事な資源だというふうに思います。近くの人たちが緑環境税の資金の一部で木を植えたりなんかしてるらしいですけども、そういうことも含めて公園を見て回られるようなものというのは私はやっぱりこれからは交流人口ふやすためにはかなり有効な手段ではないのかなというふうに思っておりましたので、こんな新聞をスクラップしました。

私は、そこで売ってた本も買ってきたんです。やっぱりこれもグリーンツーリズム事業を利用してるんですね。公的な資金も少しは入ってるんだと思いますが、やっぱり自分の先祖伝来の米をつくってたところに花を植えるためにまた変えるというのは、何らかの格好をとらないとできないんですよね、今の法律では。その意味ではさまざま私有地であるということも、周りがね、問題ありますけども、それは地域の人たちさまざまお願いすればできることでないのかなというふうに思ってるんですね。

雪の時期、以外に使ってる部分というのは、ときってあるんですよ。白鷹町で主催してる何という競技ですかね、バイクで山道を登ったりなんかするありますね。あのときにあすこへ時々泊まって休憩所にしたりなんかして使ってるんですよ。以前は外国の青年がリュック背負ってきてあそこへ泊まったこともあるみたいですけども、場所的に目立つんで何かそうやって泊まる人なんかもいるようですね。何らかの形で活用いただければありがたいなというふうに思います。

もう１項目通告しておりますので、次の方に入りたいと思いますが、医療（保険）の面から考えるＴＰＰ、いわゆる環太平洋戦略的経済連携協定。

去年の12月議会ではＴＰＰに参加に反対する意見書やらＴＰＰに対する意見書提出などについて、また竹田博一議員の一般質問における質問などもありまして、さまざま議論しましたが、例外を認めない完全な貿易自由化ということや実施されればそれでなくても40％と低い食糧自給率が14％まで下がるのではないかという考え方はほぼ一致できるのではないかというふうに思いますし、農業関係に関するＴＰＰに関し

て考え方の違いはささいなことであったのではないかなというふうに私は思っています。輸出の中心産業であります工業製品やその他の製品についても大いに議論すべきだったと反省をしているところであります。

医療に関してのＴＰＰに関しては、当局も議会も議員としても同じような認識であってほしいという立場から幾つかの点についてご質問を申し上げたいと思います。

今議論されているＴＰＰは、アメリカとの二国間貿易協定、ＦＴＡに近いという認識を持っております。アメリカという国をどう見るかなどとそんな大きく考えるつもりありませんが、少し違う角度からやっぱり私考えてみたいなというふうに思っているんです。

医療の面からということでありますので、アメリカの映画監督でマイケル・ムーアという監督聞いたことあるかと思いますけども、私その本をまず１冊読みました。こういう名前の本です。「アホでマヌケなアメリカ白人」、こういう本です。彼が書いた本ですね。

映画は私３本見ました。１本は、「ボウリング・フォー・コロンバイン」という、コロンバイン高校の中で起きた乱射事件、10人が亡くなったあの映画なんです。背景には社会背景があるんですけども、同じように銃を持っている、同じような数の銃を持っているカナダではそういう事件起きてないんです。いかにこの社会の背景が違うかということを描いたやつですね。

次は、「華氏911」、華氏の「か」はいわゆる華族の華ですね。アメリカで起きた同時多発テロの部分に対していかにブッシュとビンラディンが仲よくやってきたのかという部分を描いてる映画なんです。

問題は、もう１本目です。「シッコ」という映画です。病気という意味ですね。これはショッキングです。いわゆる医療保険に入ってない人5,000万人ぐらいいるんですね、アメリカは。するとその「シッコ」という映画の一番最初ですね、足けがして大腿骨のところ切った人、自分で縫うところから始まるんですよ。医者で多分少し効きそうな麻酔も売ってんでしょう。消毒液も売ってんでしょう。また縫合するための針も多分売ってるんでしょう、薬屋さんには。自分で買ってきて縫うところから始まるんですよ。これはショッキングな映画です。

その後もっとショッキングなことがありました。おばあちゃんが入院していて、その人は保険に入ってなかったんですね。入れなかったというか。その人は今度資金的に入院資金が底つくことを病院はわかったんですよ。わかったんでタクシーの運転手にわずかばかりの金を渡して、これで走れる分だけ走っていって、そこでおろしてくださいと。これはこの映画２つ目のショッキングなものです。

もう一つ、大工さんが仕事をしていて指を２本落としましたと。たしかこの２本だったと思います。薬指と中指だったと思います。ちょっとわかりません。どうも中指の方が高いらしいです。切ってしまったものを持っていってつないでもらう。ドル建てですからちょっとわかりませんが、多分150万円ぐらいだったと思います。こっちの方は50万円ぐらいだったと思います。こっちの金がないので、これだけつないでくださいと。

この映画というのは、医療保険のない国における一番悲惨なところをマイケル・ムーア監督は描いた映画だったんですね。

大統領選挙のときにオバマさんは、公的な医療保険制度をつくるぞというふうにして公約したんですね。しかし、できません。上院か何か通ったらしいんだけども、やっぱりできないです。できない理由は、アメリカの医療保険の会社の抵抗なんですね。公的な保険をつくってしまえば医療保険会社の方がもうからなくなります。その意味では入れさせたくないんですね、

公的な保険。

ところが日本の負担は高いけれども、国保制度も社会保険の制度も私は優秀だと思います。今回17％も上がるって大変な問題ありますが、しかし病気で苦しんでいる人を見捨てたりはしないということはやっぱり優秀だと思います。そこは決定的に違うというふうに思うんですね。

その意味では今回のＴＰＰは、日本の医師会は、やっぱりこういう危険性があるぞということで言っていることがあります。まず、混合診療にしていきたいという方向性があるぞと。これは「日本の医療保険制度も壊していくことになるのではないか」というような言い方をしておりますね。この混合診療という部分というのは、現在は混合診療して悪いことになってるのでできてないんですね。保険診療か、もしくは自由診療というふうになってますね。この混合診療の場合には、いわゆる保険診療でもっと別の高度な医療を受けようとするときには自費を払えば合わせた診療もできるようにするという緩和措置なんだと思いますね。この方向に向かうのではないかという医師会は言っているんだと思います。私は、やっぱり混合診療も問題ありますし、健康課長からは、「医療の自由化は混合診療を突破口に進められていく危険が高いのではないか」というふうに私は認識してるんですね。そこの部分について健康課長にはお答えいただきたいことと、もう一つは、市長には皆保険制度が崩壊するのでないかという、これをやったら、こういう危険性があると、含んでると思うんですね。「自由」って言葉はいいんですけども、やっぱりそこの問題について一定度の見解と市民とやっぱり認識を一致しておいた方がいいのではないかなというふうに思いましたので、ちょっと質問の時間長くなりましたが、それぞれにご答弁お願いしたいと思います。

○渋谷佐輔委員長　松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長　蒲生委員のご質問にまず私の方からお答え申し上げたいと思います。

混合診療ということで、日本の場合は確かに基本的には自由診療でない形ですが、せんだっての９月議会に蒲生光男議員からもご質問あった先進医療という部分でありますと高度医療になるわけなんですが、そこの部分では普通の保険医療を使う部分と例えば重粒子、レントゲンより高度な医療などはやっぱりちょっと保険医療じゃないタイプの、非常に高価なタイプがあるということもこれが現実であります。金額的にはまだまだ総医療費としては65億円程度のようでございますが、やっぱりこういうものあるということが現実にあります。

また、ご質問で出ました混合診療が入ってくるということはいかがかということなんですが、やっぱりこういう自由市場というんですかね、私的な医療市場、自由価格が認められるということになればやっぱり海外にとっては非常に魅力な部分だろうと思ってます。そこからそういった魅力の部分が今の日本のところに入ってくるということであればそれがだんだんで広がっていけば現在の皆保険制度の給付は狭くなってくるということになろうかと思ってます。となると自由診療のところに、お金がある人はそちらの方に向かっていく。しかし、同時に今いるドクター、医者関係もやはり高額な報償をもらえる方に行くということが現実に考えられるということなると我々のような地方の医療を保持する、守っていくという立場にとって非常に厳しい、言ってみればドクターがだんだんそちらの方に流れていくということが一番大きな問題が出てきて、地域医療は崩壊していくということが非常に私どもは懸念しております。

委員おっしゃったように、日本医師会としても、また医師会、歯科医師会全体の国民医療推進協議会というのもやはり基本的にもその立場だというふうに認識しております。以上です。

○渋谷佐輔委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　ただいま健康課長が申し上げましたように、混合診療というのは先進医療ではそうなってるわけですが、これがふえていけば保険自体が崩壊する可能性が高いというふうに思います。ＴＰＰの参加によって医療分野について全面的な解禁は、日本の医療に市場原理主義が持ち込まれるということですから、自由で高価な医療はいわゆる富裕層が受ける保険給付の範囲も狭まると。最終的には国民皆保険の崩壊につながりかねないというのが医師会の国民医療推進協議会の主張ですけども、私も同感でして、これによってすぐれた日本の皆保険制度が崩壊しかねない、そういったところも気をつけて私ども見ていかなきゃいけない、そのように思っております。

○渋谷佐輔委員長　17番、蒲生吉夫委員。

○１７番　蒲生吉夫委員　大変ありがとうございました。

　きょうの私の総括質疑は、一般質問、総括質疑含めて24年間で139回目です。あとすることがないと思いますが、これからまた当局の方も議会と十分な議論しながら進めていただきたいというふうにお願いいたしまして終わりたいと思います。

髙橋孝夫委員の総括質疑

○渋谷佐輔委員長　次に、順位２番、議席番号10番、髙橋孝夫委員。

○１０番　髙橋孝夫委員　私は、市民生活の向上願いながら総括質疑をさせていただきます。４点について質問させていただきますので、明快な答弁をいただきますようにお願いをしておきたいと思います。

　今月というか、最近、先週ですが、生涯忘れないであろうという数値があります。一つは、３・11、もう一つはマグニチュード9.0だと思います。60年間生きてきて、昭和42年の羽越水害のとき私のうちは床上浸水だったもんですから、もちろん寝ることもできませんでしたし、電気も来ませんでした。そういう思い以来なかったんですが、まず一昼夜以上停電をしたというのが本当に久々の体験でした。地震があってすぐマツヤデンキに行きました。そしたら乾電池持ってってくれ、もう全部放出してるんです。多分電気が停電なるから乾電池もういいです、持ってってくださいと言うわけです。いただいてきました。助かりました。うちにある懐中電灯ほとんど、全部で５基しかなかったんですけども、それで入れかえてすること本当に助かったんです。そういうことって本当に大事なんだなとつくづく感じました。親たちは深刻なんですが、２人の孫はろうそくの明かりで暮らすというのは何か浮き浮きするんですね。こんなこともあるのかなというふうに感じたところです。

　もう一つ私感じたのは、娘が福島、郡山におりまして、うちに入れないというわけですね。もうめちゃめちゃ。車で生活してると聞いて、次に日行きました。栗子をおりたら全く電気のない世界と水のない世界です。いろんなところにポリタンクを持った住民が並んでます。あっと思いました。家内と２人行ったんですが、トイレに行きたいとなったんです。高速使えませんから４号線で行ったんですけども、道の駅行ってトイレ入ったら使えないんですよ。これももうコンビニもだめ。これは大変なことなんだなとつくづく感じました。行って後片づけをして食糧調達に行こうといろんなところ回りましたけど、これも悲惨。ないんです。コンビニに至ってはあるのはたばことアルコール類だけ。ほかの食い物は一切なしという状態。一昼夜行ってきたわけですけれども、帰り山形、栗子を通ってきて帰ってきて、米沢に着いた途端ほっとしました。何と県をまたぐことでこれだけ違